

令和7年度 動物愛護週間中央行事（屋内行事）実施結果

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な使用について理解と関心を深めるために設けられており、「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条には国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが定められている。

本会は、本年も東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する動物愛護週間中央行事実行委員会のメンバーである主催者構成団体として参画した。

令和7年度動物愛護週間中央行事（屋内行事）は、9月23日（火・祝）に「人もどうぶつも守る防災術」をテーマに東京国立博物館（平成館1階 大講堂）にて対面形式に加え、一部オンラインを併用して開催された。第1部では、環境省をはじめとした実行委員会構成団体による各コンクールの受賞作品等の紹介がされた。本会は「第37回日本動物児童文学賞」の大賞・優秀賞・奨励賞に入賞した計8作品の紹介及び表彰を行った。

【第37回日本動物児童文学賞 受賞作品】

〈日本動物児童文学大賞〉

「春をよぶシャッター」

にしの桃子（愛知県）

〈日本動物児童文学優秀賞〉

「ロクを見つけた日」

渡部麻実（千葉県）

「わたしはインターん」

さいだ・としひろ（三重県）

〈日本動物児童文学奨励賞〉

「ピンクがピンクに染まつたら」

おーた みか（愛知県）

「お化けじゃないぞ」

小川かをり（東京都）

「豆助になったクロ」

朝日ひかる（岩手県）

「ナミイのはばたき」

藤田くみこ（東京都）

「つなぐ、エメラルド」

はるたけ こはね（福島県）

表彰式では、本年度大賞受賞者である、にしの桃子氏に、成田浩司大臣官房審議官（自然環境局）から環境大臣賞が、本会蔵内勇夫会長から日本動物児童文学大賞の賞状が、大竹 薫損害保険ジャパン株式会社団体・公務開発部第二課長から副賞が、それぞれ授与された。

続いて、優秀賞受賞者である渡部麻実氏に蔵内勇夫会長から日本動物児童文学優秀賞の賞状が、阿部雄二アニコム損害保険株式会社給付管理部部長から副賞が授与された。

もう一人の優秀賞受賞者である、さいだ・としひろ氏に蔵内勇夫会長から日本動物児童文学優秀賞の賞状が、大竹 薫損害保険ジャパン株式会社団体・公務開発部第



図1 第37回日本動物児童文学賞受賞者記念撮影風景

後列：左からアニコム損害保険株式会社給付管理部 阿部雄二部長、成田浩司 大臣官房審議官（自然環境局）、日本獣医師会 蔵内勇夫会長、損害保険ジャパン株式会社団体・公務開発部 第二課 大竹 薫課長

前列：左から優秀賞 さいだ・としひろ氏、大賞 にしの桃子氏、優秀賞 渡部麻実氏

二課長から副賞が授与された。

続いて第2部では、シンポジウム「災害時、どうぶつたちとどう過ごす？」が行われた。内容は以下のとおり。

【第1部：「能登半島地震ではどうしていた？

現場から学ぶ防災術】

「ペットとの避難の実際と備えのヒント」

講師：平井潤子氏

（東京都獣医師会 顧問、NPO法人ANICE代表）

「のとじま臨海公園水族館の対応レポート」

講師：加藤雅文氏

（のとじま臨海公園水族館 展示・海洋動物科 科長）

【第2部：災害に備えるために 私とペットの防災術】

プレゼンター：

入交眞巳氏（東京農工大学ワンウェルフェア高等研究所 特任准教授）

平井潤子氏（東京都獣医師会 顧問、NPO法人ANICE代表）

石川拓哉氏（環境省動物愛護管理室 室長）

スペシャルゲスト：

菅 良太郎さん（パンサー）

向井 慧さん（パンサー）



図2 「ペットとの避難の実際と備えのヒント」で講演する平井潤子氏



図3 「のとじま臨海公園水族館の対応レポート」で講演する加藤雅文氏



図4 「災害に備えるために 私とペットの防災術」で進行をする石川拓哉
環境省動物愛護管理室長



図5 「災害に備えるために 私とペットの防災術」で解説をする平井潤子氏



図6 「災害に備えるために 私とペットの防災術」で解説をする入交眞巳氏